

# 回 答 書

受付番号	回収年月日	回収場所	担当主管課
第 60 号	平成 26 年 2 月 7 日	伊予市役所	総務部 総務課
題 目 (テーマ) : 市政懇談会について			
提 案 内 容 (要 旨)			
<p>今回、郡中地区の市政懇談会（平成 25 年 11 月 20 日、12 月 24 日、平成 26 年 1 月 27 日）に参加させていただきました。</p> <p>議題（テーマ）は、「道路や河川関係」「生活環境問題」「その他の諸々問題」についてでした。しかしながら、これらの問題の大半は、市長が出席して回答するような問題ではないように感じましたし、統合して話をすればもっと効率的で自由討論する時間の捻出も可能であったと感じました。</p> <p>つまり、大半の問題は目安箱で十分解決できるような件名が多々あったのではないのでしょうか。</p> <p>(1) 更に感じたことは、若い市民が参加していないことです。そして、もっと若い市職員を出席させるべきではないのでしょうか。若い市民が参加しないのは時間がないのか、テーマ・議題に興味がないか、出席しても何も変わらないとさめているためであろうと推測しています。市の職員としての部長・課長は何でも良くご存じですが、立場上新しい意見は出せないでしょう。</p> <p>(2) テーマとしては、将来に夢や希望が湧くような前向きなテーマであって欲しいと思います。前もって答弁書が準備され、粛々と進めるのでは良い意見が出てくるとは思われません。多忙な市長が出席して実施するような懇談会ではないように思いました。従って市長の回答にも力がありませんでした。</p> <p>(3) もっと本音で、将来のビジョンを語れる懇談会を実施してほしいと思います。今の伊予市のままでは、何も変わらないし変えられない。伊予市として今何をすべきなのか。何が一番必要なのか。何をどうしたいのか。強力なリーダーシップを発揮してほしいと思います。既得権にがんじがらめになっており、伊予市の諸問題を少しずつでも解決し、打破して行ってほしいと思います。</p> <p>(4) 今の伊予市の市民は、変化を求めようとしない。どうせ変わらない。何を言っても同じだ。そんな市民が多いと感じています。市民は自身を失っています。このような時には、強力なリーダーシップを持って、ぐいぐい引っ張っていくようなトップダウンのできるリーダーが必要であると思っております。強力なリーダーシップを発揮してほしいと思います。</p> <p>(5) また、市職員はもっと市民と直接的に話をするような位置にまで下りてきて、話を聞いてほしい。市職員は、現場第一主義であるべきと感じています。市民と市職員の間には、色々の組織が絡んで市民と直接話せないようなシステムが構築されている。例えば審議会・委員会の類である。市職員にとってはこのほうが楽であるし、見た目は効率的である。市民と市職員が同じ目線で話をしないでも済むようなシステムになっている。</p>			

改革は、市民と市職員が同じ目線で話をしないと無理である。本音の話が聴けない。

(6) 第3回の懇談会の終り頃になって、懇談会らしくなってきました。しかし、司会者の権限と称して発言を遮って、残念ながら終了させてしまいました。参加者は何かを言いたいために、また何かを聴きたいために参加している。今のやり方では改革するような意見は出ない。出せない。このような懇談会でよいのでしょうか。時間切れで終了させて良いのでしょうか。筋書きのない論議ができるような懇談会であってほしいし、現状のやり方では物足りないと思います。

(7) 若い人を参加させるヒントが、市長選前の「伊予市の明日を考える市民集会」にあるのではないかと考えています。その集会には若者が集まりました。若者が何を求めているのか、この集会にヒントがあるように思いますので検討してみてください。いずれにしろ、明日の伊予市を担う若い人の参加がなければ、明日の伊予市はないように感じます。

(8) 「伊予市地域おこし協力隊」が発足したそうですが、非常に良いことだと感じました。人数は5人で、人件費は国費だそうです。配員の割合が旧伊予：中山：双海が1：1：3と聞きました。何かアンバランスで変ではありませんか。また、以前、目安箱に広報区長・広報委員制度の再検討について提案しました。改善策の一つはまさにこのような制度をイメージしていました。人数も5人ですし、予算も一人400万円と同じです。

(9) 懇談会の回答書を市民が閲覧できるようにしてほしいと思います。

#### 回 答 内 容

貴重なご意見、ありがとうございます。

まず、市政懇談会の開催方法についてご説明し、ご意見の(1)、(2)、(6)及び(7)についての回答といたします。

市政懇談会実施要綱では、開催を要望する地区（以下「実施地区」といいます。）から、懇談したいテーマ等を市長宛にご提出いただき、実施地区の主催で開催することといたしております。

従いまして、ご意見・ご要望等テーマの取りまとめ、住民の方への周知及び懇談会の進行等、開催に係る運営は全て実施地区で行っております。市は、実施地区から提出のあったご意見・ご要望に回答することとしています。また、市長は必ず出席するよう本要綱で規定しております。

この度の懇談会では、1回当たりのご意見・ご要望の数が8題から10題と多く、ご出席いただいた方々からのご意見等をお聞きする時間が少なかったことは、今後の課題と捉え、次回からは開催要望がある実施地区と相談し、より良い運営となるようにしたいと考えますのでご理解をお願いします。

(3)についてですが、今年度から「市長と語るミニ懇談会」等の開催要綱を制定し、開催要望があった団体のもとへ市長はじめ市職員が出向き、少人数で身近な問題について

直接意見交換を行うこととしております。

市ホームページをご覧ください、市長に直接聞きたいご意見等があればご活用いただき、その中で若い方にもご参加いただければと願います。

(4)については、今の時代、強いリーダーシップが求められているのはご指摘のとおりです。しかし、リーダーシップを発揮するためには、市民の方のご意見をお聞きする場も必要であり、そのための「市政懇談会」等であると考えます。ちょうど、庁舎建設に伴い、広く市民の皆様からご意見をお聞きしたタウンミーティングの実施がこれに当たると考えます。

(5)の市職員は、現場第一主義とのご意見ですが、ご指摘のとおりと考えますので、今後、検討してまいりたいと存じます。

(8)の地域おこし協力隊についてですが、現在、伊予地域は郡中地区に、中山地域は佐礼谷地区に各1名ずつ、双海地域は翠地区、由並地区、下灘地区に各1名ずつの3名で、市全体で5名の配置となっています。

人員がアンバランスではないかというご指摘ですが、隊員の配置は、地域からの要望を基にして行っております。

隊員は都市部で募集し、応募のあった都市住民を地域おこし協力隊員として委嘱し、地域おこし活動の支援や農林漁業の応援、住民の生活支援など「地域協力活動」に従事し、あわせて定住・定着を図りながら、地域の活性化に貢献しております。

また、以前の広報区長・広報委員制度の再検討についても、この地域おこし協力隊の制度のイメージでのご提案であったとのことですが、前回、ご回答申し上げましたとおり、広報区長・広報委員の業務は非常に多岐に渡っており、各地域に少人数ごとの配置では、現在依頼している業務を全てこなすことは困難と考えますので、ご理解をお願いします。

最後に(9)の市政懇談会の回答書の閲覧については、今後、議事録をホームページに掲載する方向で検討いたしますのでご理解をお願いします。

市政懇談会は、市民の皆さんのご意見・ご要望を、直接市長がお聞きする場と捉えております。郡中地区広報区長協議会では、今後も開催の要望があると聞いていますので、開催された際には、貴重なご意見・ご要望をお寄せいただきますようお願いいたします。